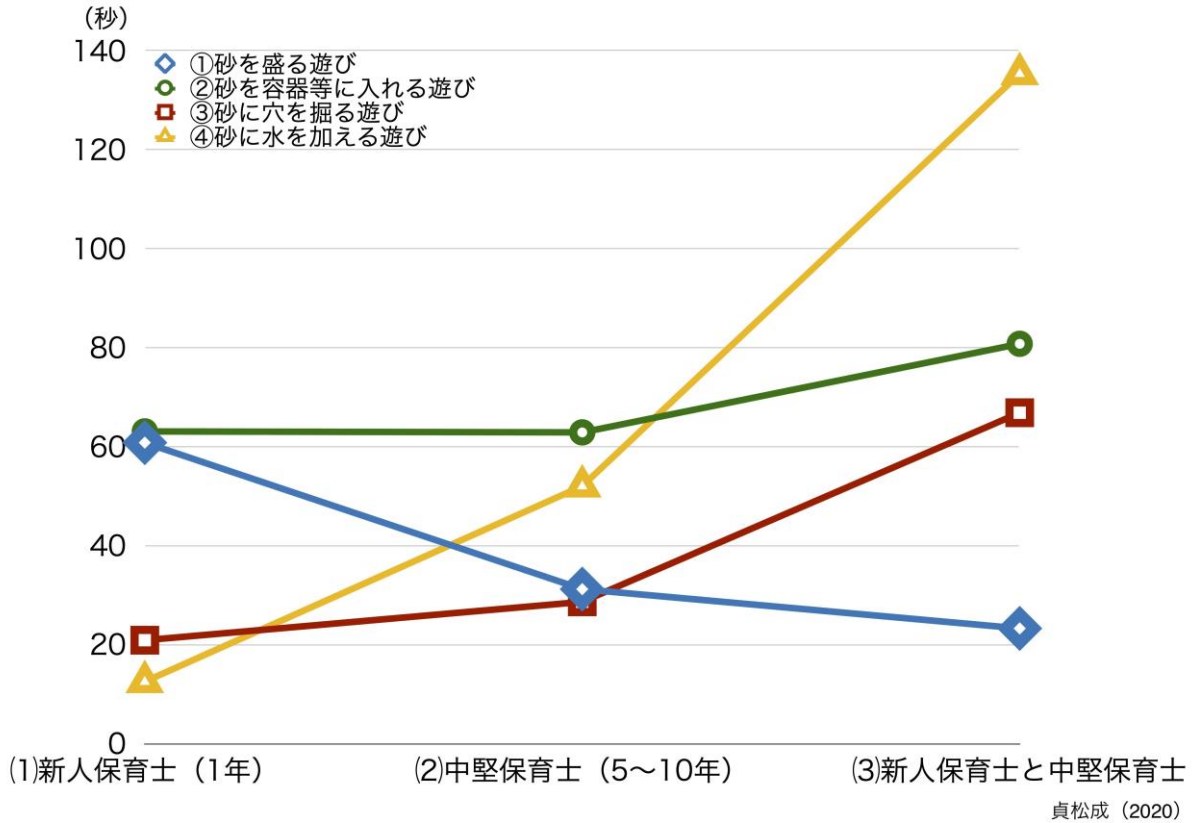


# gb Opinion Report

株式会社 global bridge HOLDINGS 貞松 成

## 子どもが砂場で遊ぶ時間が示唆する保育経験年数の重要性

保育士の経験年数別に見た子どもの砂遊びの種類と時間の比較



以前から、保育の個別最適化の実現に向けて調査している。

上図は、3歳児クラスを担当する一年目の新人保育士 10 名と保育経験 5 年以上 10 年以下の中堅保育士 10 名の合計 20 名の保育士と、129 名の3歳児の砂場遊びの様子を 16 ヶ所の認可保育所で動画撮影し、保育士と子どもの行動回数と、行動一回あたりの時間数を集計して表にしたものである。今回の動画は保育士と子どもの人数が多く、総合計撮影時間数も約 462 分間と長時間であったこともあり、多くの結果を得ることができた。

今回は、その結果の 1 つを紹介する。

保育士と子どもの砂遊びについて明らかになったことは、保育士の保育経験年数が長いと子どもは複雑な砂遊びを長時間継続し、保育経験年数が短いと単純な砂遊びを長時間継続することがわかった。

今回計測した子どもの遊びは、

- ①砂を盛る遊び
- ②砂を容器等に入れる遊び
- ③砂に穴を掘る遊び
- ④砂に水を加える遊び

の 4 種類である。①は「片手でスコップ等の道具を持ち、砂を掬って別の場所に移す」、②は「片手で容器を持ち、

もう片方の手で道具を使って砂を入れる」、③は「両手で道具を使いながら、他人の協力を要する」、④は「水分によって性質が変容する砂を使うため、遊びの幅が広がる」。

このように①から④の順番に砂遊びが複雑化する。

①の「砂を盛る遊び」に関しては、子どもは保育経験年数が1年未満の新人保育士と一緒に砂遊びをすると約60秒間にわたって継続したのに対し、中堅保育士と遊ぶと半分の30秒にまで減り、新人保育士と中堅保育士の二人一組と遊ぶと23秒しか遊ばないことがわかった。

②の「砂を容器等に入れる遊び」に関しては、新人保育士と中堅保育士はどちらも約60秒と大きく違いはなかったが、二人一組の保育士と遊ぶと80秒にまで伸びる。これは、子どもが砂を容器に入れた後に、自分の遊びの成果を見てくれる保育士が近くにいることで伸びている。

③の「砂に穴を掘る遊び」に関しては、影響を与えているのは経験年数というよりは、二人の保育士が存在することで、水平方向にトンネルを作ったり、垂直方向に深く掘ったりすることが可能になった結果である。

④の「砂に水を加える遊び」に関しては、最も顕著な違いが確認できた。保育士は、経験を重なると、水を使って砂の性質を変えることで、子どもの砂遊びの幅を広げている。新人保育士は17%、中堅保育士は83%が水を使った。結果として、新人保育士と遊ぶと、水遊びを12秒継続し、中堅保育士と遊ぶと52秒継続し、二人一組の保育士と遊ぶと135秒も継続することがわかった。

これまでも、経験年数に伴って保育士の遊びの引き出しが増えることは自明であったが、子どもの砂遊びの種類別に時間の記録を取り、経験年数に比例して遊び時間が伸びることはあまり知られていなかった事実だろう。

今回の結果から、端的な見解を述べるとするならば、砂遊びは経験年数5年以上の保育士を含めた2名以上の保育士が担当すると子どもの砂遊びに対する集中時間は最も長くなるということになる。

そのためには、5～10年の保育経験から変化が見られたことから、保育士が長く務めることの重要性を確認することができた。

今後も、保育士はどのようにして保育の個別最適化を実現しようとしているのかについて継続して調査する。

●当レポートは、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。当レポートのご利用に際しては、ご自身の判断にてお願い申し上げます。また、当レポートは執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。なお、当レポートに記載された内容は予告なしに変更されることもあります。当レポートは著作物であり、著作権法に基づき保護されています。当レポートの全文又は一部を著作権法の定める範囲を超えて無断で複製、翻訳、翻案、出版、販売、貸与、転載することを禁じます。